

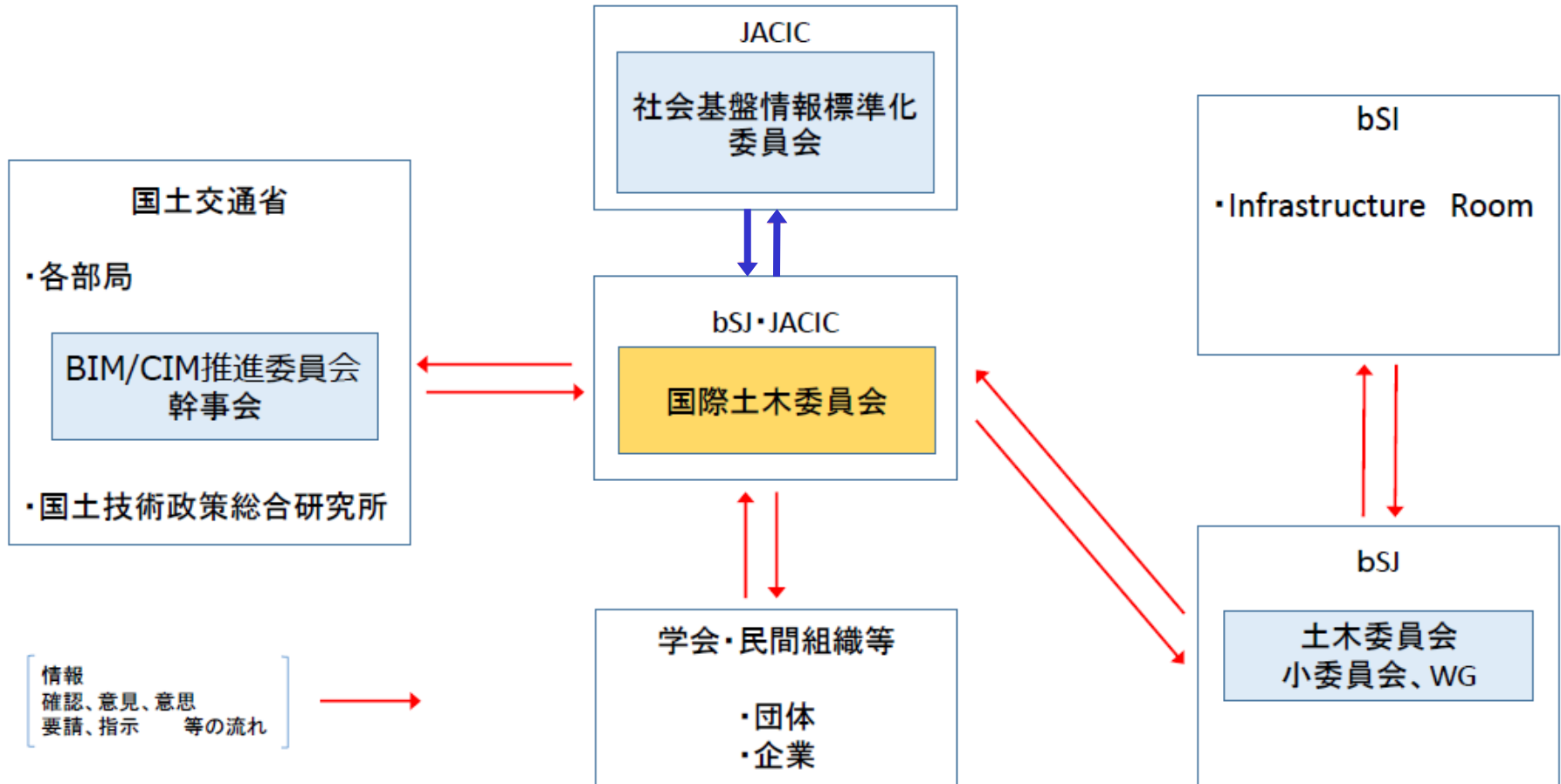
社会基盤情報標準化委員会について

～ IFCの活用に向けて ～

社会基盤情報標準化委員会事務局

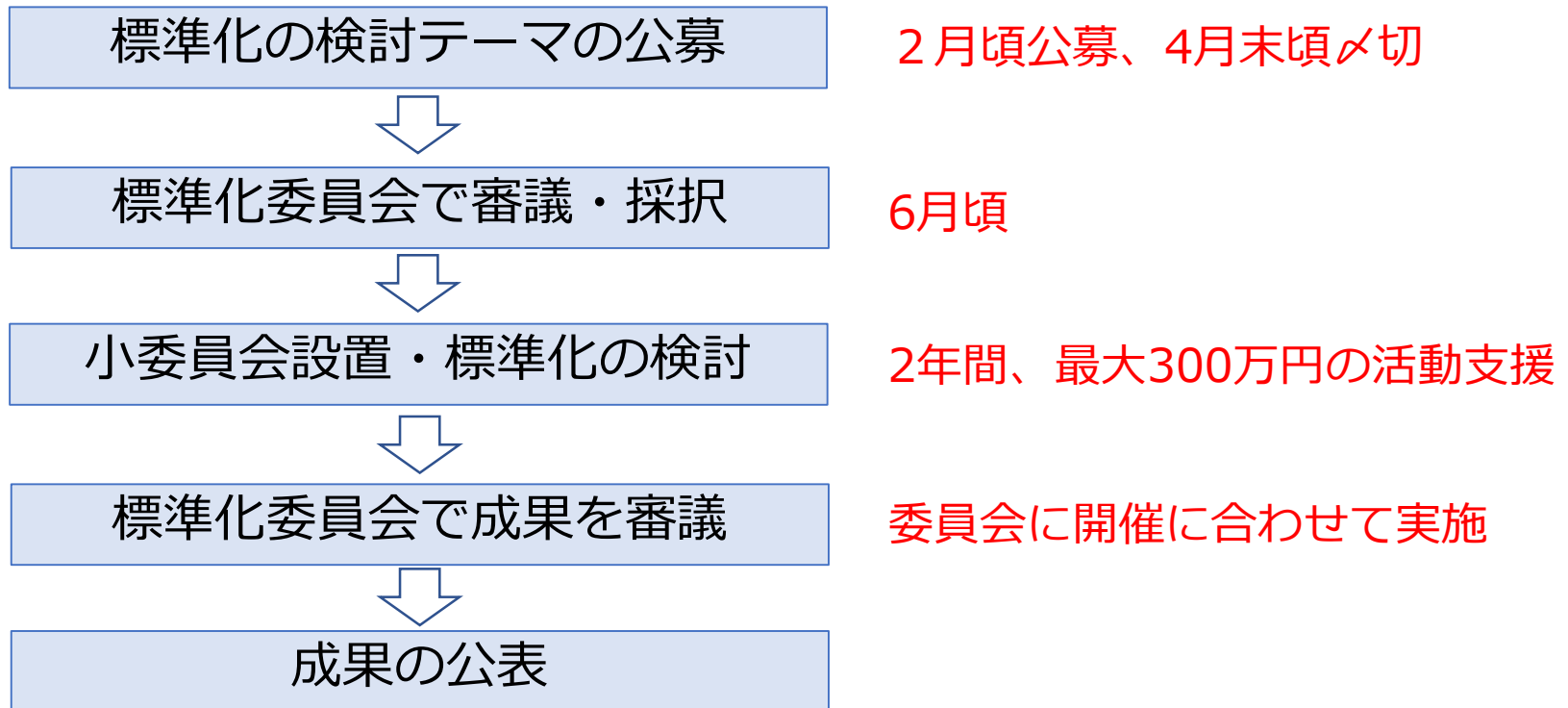
明野和彦

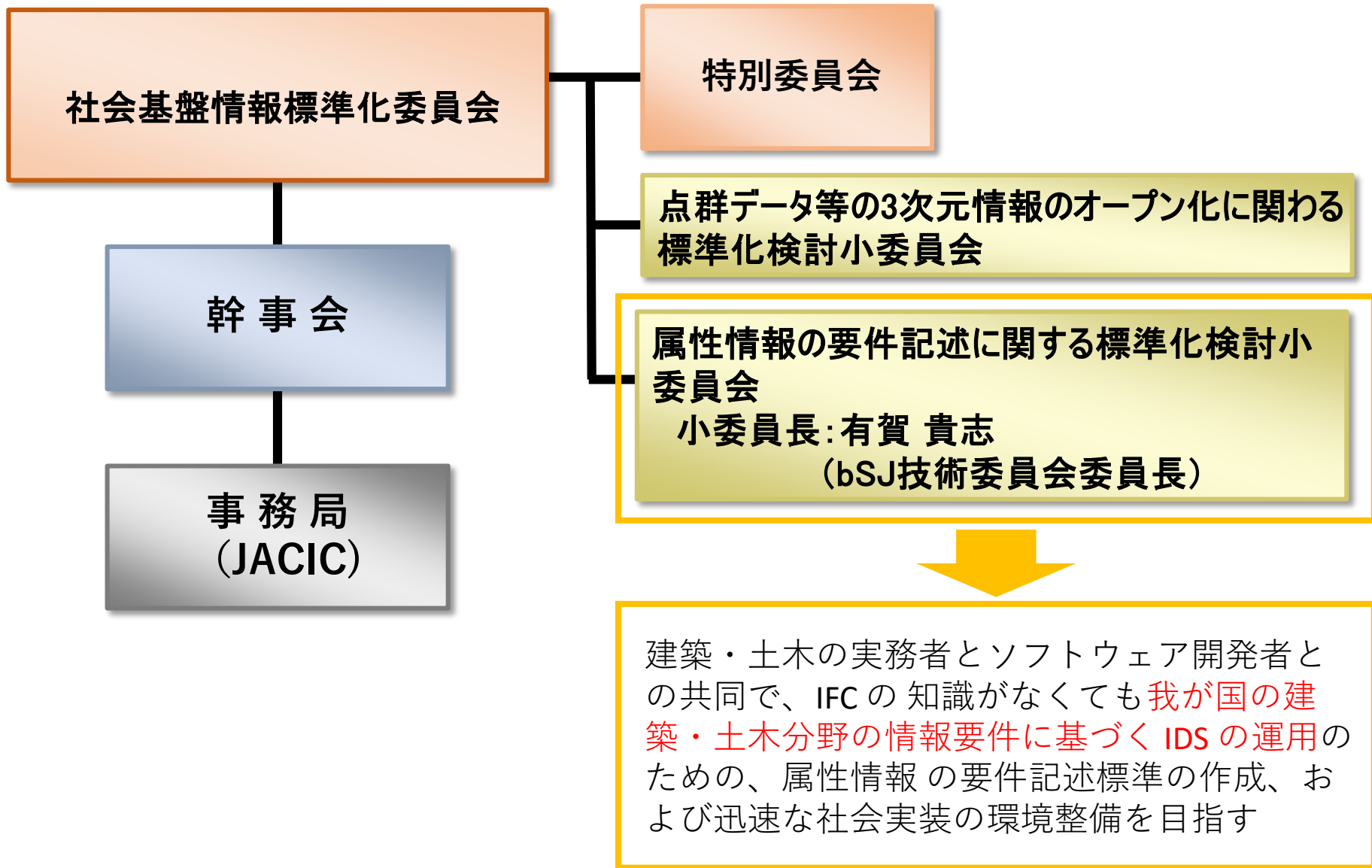
- 2013年、bSIにインフラ分科会が設置され、インフラ分野への拡張が進められてきたIFCは、国際標準化機構（ISO）において国際規格として承認される最終投票段階にあり、来年早々には国際規格（ISO規格）となる見込み
- IFCは、構造物の情報モデルのデータ構造を定めたものであり、実際の利用にあたっては目的に応じてデータ利用（連携）のシーン・シナリオを整理し、IDM・MVD・対応ソフトウェアの開発が必要になる
- 日本でも利用目的に応じたIDM・MVD・辞書が開発が望まれる



- 社会基盤分野の情報の標準化の取組を通じ、生産性の向上を図り、広く国民全体の利益に寄与する観点から、JACICが設置した産学官のメンバーで構成される委員会
- 実際の標準化の検討は、
 - 特別委員会：標準化委員会が主体となり標準化の検討テーマを設定し検討を行う
 - 小委員会：検討テーマを公募し、採択したテーマを検討する小委員会を設置し、これに対する支援をすることにより、検討を行う

- 毎年、2月頃に検討テーマを公募。委員会で審議、採択されれば、応募者は小委員会を設置。JACICから運営等に最大300万円を支援





- 日本国内のIFC適用に向けたIDM・MVD等など作成検討
(公募による小委員会の活用；2月頃公募開始、4月末締切)
- 検討過程で、IFCに課題を発見した場合は、国際土木委員会等に知見を集約し、将来のIFC改正に反映を目指す
- そのほか、IFC未開発分野のIFC検討・開発等も望まれる。
(将来、日本から新規分野のIFC提案や、bSIでの新規分野のIFC検討開始時に日本モデルへの適合性のチェックに活用可能)
- JACICでは研究助成も実施しており、そちらの活用も可能
(3月頃公募開始、6月末締切)